

中部支社 NAGOYA
 〒460-0013
 名古屋市中区上瀬津1丁目12番12号
 上瀬津のセンタービル
 TEL (052) 331-3371 FAX (052) 331-3374

中日本ネットワーク

東海・信越・北陸

北信越支局 NIGATA
 〒950-0088
 新潟市中央区万代西1丁目2番23号
 オオスズビル301
 TEL (025) 244-7600 FAX (025) 244-7601

長野県 産業廃棄物3R 専門研修会開く



講演をする河野氏

【伊那】長野県環境部資源循環推進課は8日、伊那合同庁舎で産業廃棄物3R専門研修会を開催。県内の製造業など14社が参加し、3Rについての講演を聴講するとともに意見交換会を行い、議論を深めた。

会の冒頭で長野県環境部資源循環推進課の八町博明・企画幹が挨拶を述べた。

「中国の廃プラいさつ。中国の廃プラスチック等の輸入規制を受け、産業廃棄物のリサイクルは国際情勢が非常に厳しくなっている。県としてはそのような状況下でも3Rを推進、実践していきたい。研修会では皆さまに先進事例や足元の状況を知って頂き、各社の3R活動に活かしてほしい」と述べた。

第一部の講演会で講師を務めたのは、inci合同会社の河野公彦代表。河野氏は全職のアミタグループで200社以上の製造業のリサイクルソリューションを手掛ける。島まること循環モデル」の構築に向けた調査・事業開発を実施した経験を持つ。

講演では3Rの定義、法体制、取り組みの基本背景から解説。続いて3Rにおける、INPUT、OUTPUT、PROCESSのそれぞれで有効な情報とその情報の共有が重要であることを説明した。3Rそれぞれの事例も紹介。リデュース事例では、鉄製品の研磨スラッジやスチールコード等の原料をフリケット化し鉄鋼の代替品として鉄鋼・電炉メーカーに納入

することが検討されていることも紹介された。

河野氏は長野県の特徴についても言及。ごみ排出量の少なさが日本一である一方で、産業廃棄物の流出量が流入量に比べて多い点、産業

物の中間処分や最終処分の選択肢がそれほど多くないことを説明。そのうえで、「日本でいつでも3R先進事例をつくることができれば、それは世界一の取り組みになると思う。長野から世界に誇れる

3Rモデルを発信してほしい」と話した。

第二部は参加した各社がそれぞれ議題を持ち寄り、意見交換会を開催。各社が抱える3Rについての問題や疑問点を話し合った。